

February 1, 2026

日々新たに
コリント第二 4:16-18

4:16 ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

4:17 私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

4:18 私たちは見えるものではなく、見えないものに目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。

一、外なる人

16節は「ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています」と言って、「外なる人」と「内なる人」を区別しています。これは、身体と靈魂、生物学的なものと靈的なものとの区別です。聖書は、人間は物質的なものだけでなく、靈的なものであると教えています。そして、「外なる人」は、生まれてから成長し続けますが、やがてピークに達したあとは、衰えていくのです。

身長についていえば、女の子は11歳ごろ、男の子は13歳ごろにピークに達します。このころになると骨がくっついて、それ以上身長が伸びなくなるのです。赤ちゃんは350個の骨を持っていますが、軟骨が融合して、大人になると206個に減ってしまいます。けれども、人の成長は身長だけではありません。体力的に言えば、20歳から30歳前半までが一番力がありますが、やがて衰えます。たいていのスポーツ選手が40歳ごろ引退するのはそのためです。けれども、知識や熟練、社会性

など、総合的な能力を言えば、50歳から60歳までが最も優れていると言われていています。けれども、それもまた「外なる人」であって、「外なる人」はいつまでも若さや力を保っていることはできません。

ですから、伝道者の書 12:1-2 は、「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわざの日が来ないうちに、また『何の喜びもない』と言う年月が近づく前に。太陽と光、月と星が暗くなる前に、また雨の後に雨雲が戻って来る前に」と言うのです。「太陽と光、月と星が暗くなる」、「雨の後に雨雲が戻って来る」というのは、冬の季節を描いています。スイスの精神科医パウル・トゥルニエが書いた『人生の四季』では、20歳までが人生の春、40歳までが人生の夏、その後は人生の秋といったふうに区分されています。トゥルニエによれば60歳から冬の季節に入ります。伝道者の書も老年期を冬の季節に喩えているのでしょう。そして、その前に、創造主を信じるように教えているのです。魂のことにも目を向け、身体も魂を造られた神を信じるようにと教えているのです。

二、内なる人

人は身体だけでできているわけではありません。創世記 2:7 に「神である主は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった」とあるように、身体は、やがては衰え、ひびが入り、砕かれる「土の器」にすぎなくても、その「土の器」には、神によって、神のかたちに造られた霊と魂が宿っているのです。ですから、イエスは、「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら何の益があるでしょうか。そのいのちを買い戻すの

に、人は何を差し出せばよいのでしょうか」（マタイ 16:26）
と言われたのです。神が人に吹き込まれた「いのち」、つまり、人の霊と魂は全世界よりも値打ちがあるのです。

けれども、近年、人間と動物との境目が薄れてきました。レストランのメニューに “Vegetarian” は以前からありましたが、最近では “Vegan” と書かれたものが増えました。これは肉や魚だけでなく、卵、乳製品、蜂蜜など、動物由来のものを使わないものをさします。Vegan の人は、そうしたものを一切口にしないだけでなく、革や羊毛また絹でできた衣服も身につけません。健康や自然保護、動物愛護のためとは言いますが、背後には一つの「信仰」があります。それは、神が自然を創造されたのではなく、自然そのものが神であるという「信仰」、「宗教」です。人間は他の動物と変わらない自然の一部であり、自然の命は平等なのだと言います。だから、動物の命を奪って、それを食べ物にしてはならないというのです。イエスは、「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか」（マタイ 6:26）と言われ、人間の価値を教えられたが、その人たちから見れば、イエスは間違っていたことになります。クリスチャンが神を “Father God” と呼んで、愛と信頼を言い表すのに対して、その人たちは Mother Nature と呼んで自然を崇拜します。もちろん、健康のためバランスよく食べ物を摂ることや自然保護、動物愛護は大切なことです。しかし、神が人間を特別のものとして造り、人間に本能を超えた道徳的な生活と、より高いな使命をお与えになったことは否定できない事実です。

自然を観察し続けてきた科学者たちは、口をそろえて「神が自然を造られた」と言っています。自然そのものが創造主である神の栄光を語り告げています。神が、人間を、「外なる人」も「内なる人」も見事に、また価値あるものとして創造されたからこそ、私たちは、意味と目的ある人生を、誇りをもって生きることができるのです。それは社会生活でも同じです。アメリカの独立宣言が、「われわれは以下の真理を自明であると信じる。すなわち、すべての人は平等に創造され、ひとりびとりは創造主なる神によって、常に変らぬ、他に譲り渡すことのできない権利を与えられている。これらの権利の中には、生命、自由、幸福を追求する権利が含まれている」と言うように、人権が守られ、自由が保証される社会は、一人ひとりが創造者である神によって、霊と魂を持つ者として造られていることを認め、信じることによってなのです。創造者への信仰なしには、社会を成り立たせることができないと信じています。

三、日々新たに

さて、16節は「ですから、私たちは落胆しません」との言葉で始まっています。パウロがこの手紙を書いたのは60歳ごろで、老年期に入っていました。身体の衰えを感じていたことでしょう。その上、この時、パウロの心にはコリント教会のことで大きな心配があつて、気が気でない状態でした。身体の面でも精神的な面でも衰えを感じていました。けれども、彼は、「落胆しません」と言っています。なぜでしょう。「内なる人」が日々新たにされるのを体験をしていたからです。

パウロは、ここで、「内なる人」を「靈魂」や「精神」以上のものとして使っています。私たちはみな、身体が弱れば精神

も弱り、魂がうなだれば、身体も力を失うことを知っています。心と身体が相互に影響しあっていることは医学的にも証明されています。ここで言われている「内なる人」は、そうしたものに左右されない、イエス・キリストにあって新しく創造された「新しい人」のことを言っているのです。コリント第二5:17に、「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」と言われている「新しい人」です。生まれながらの私たちは、罪のために衰え、滅びるしかありません。しかし、神は、そんな私たちを、衰えることも、滅びることもない者、新しい存在として造り変えてくださったのです。

この新しい創造は、「復活」とも呼ばれます。イエスを信じる者は、イエスの十字架とともに死に、イエスのよみがえりとともに復活したのです。また、それは、「新生」（ブーン・アゲイン）とも呼ばれます。イエス・キリストを信じる者は、聖霊によって、神の子どもとして生まれたからです。そして、新しい人、復活した人、神の子どもとして生まれた者を生かすのは、永遠の命です。永遠の命は私たちが天に行ってから受け取るものではありません。イエス・キリストを信じたときに与えられたものです。この命によって、神と共に生き、神のために生きるのです。ですから、キリストを信じる者は、地上では、自然の命と永遠の命の2つを同時に持っていることとなります。

自然の命は使えば減るものです。車にガソリンを満タンにしても、走っているうちにどんどん減っていくのと同じです。しかし、永遠の命は、最初は小さなはじまりであっても、それは

どんどん大きくなっていきます。増え続けて無くならないのです。やがて、自然の命が尽きたとしても、永遠の命は私たちを生かし続け、それによって、私たちは永遠の御国で、永遠に神とともに生きるのです。

この命によって、私たちは「日々新たにされ」ます。このことで思い起こすのは哀歌 3:22-23 です。「実に、私たちは滅び失せなかった。／主のあわれみが尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。」私たちがどんなに苦しい一日を過ごしても、それで太陽が沈んだままにはなりません。陽はまた昇ります。そのように、私たちがどんなに精神的に疲れ、魂がしおれて一日を終えても、神の命、キリストの復活の命、そして聖霊の命は、次の日には再び私たちを生かし、力づけてくれるのです。

また、イザヤ 40:30-31 はこう言います。「若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。」「鷲のように、翼を広げて上る」とありますが、鷲は自分の羽をばたばた動かして空を飛びません。風を読み、その翼に風をキャッチして、風に乗って飛ぶのです。信仰者も同じです。信仰の翼を広げて、神が送ってくださる風を受け、神の力によって、空高く上るのです。自然の命が与える体力や精神力だけで何かをしようとしたら、疲れ、つまずき、倒れるだけです。しかし、神がくださった永遠の命、日々に、朝ごとに新しい命に生かされるなら、私たちの「内なる人」は「走っても力衰えず、歩いても疲れぬ」力を得て、人生を最後まで歩み続けることができるのです。

「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ」との言葉の

とおりに、若い時にイエス・キリストを信じる事ができたことを、私は感謝しています。「外なる人」の衰えを感じる事が多い年齢になりましたが、「何の喜びもない」と口にする日は一日もありませんでした。神から頂いた新しい命は、神のあわれみと共に、日ごとに、朝ごとに新しく、私を強めてくれます。イエス・キリストを信じ、神に頼るのに遅すぎることはありません。創造者である神は、私たちに新しく造り変えてくださる神、罪と死の中からよみがえらせてくださる神、私たちをご自分の子どもとして愛してくださる神です。このお方からの命に生かされる日々を歩み続けたいと心から願います。

(祈り)

父なる神さま、あなたは、力に満ちた創造の神、私たちを自然の命ばかりか、永遠の命で生かしてくださるお方です。きょう、イエス・キリストを信じて永遠の命を受ける人々が起こされますように。信じる者たちが、その命に生かされ、日ごとに新しくされる恵みを体験できますように。イエス・キリストのお名前です。